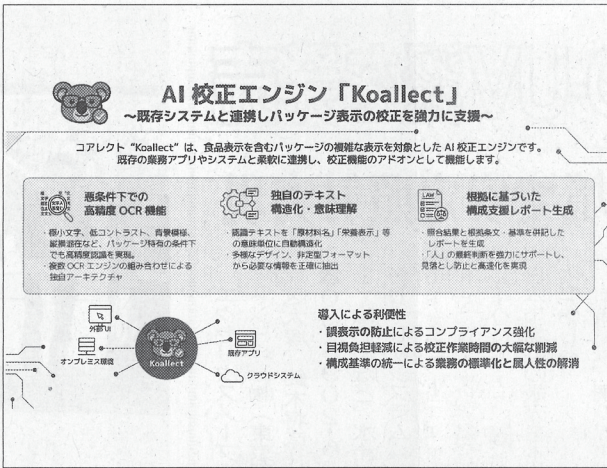


食品ラベルのAI校正ツールで協業

シリウスビジョン、丸信、タクトピクセル 「mikaesu」高機能化



AI校正エンジン「Koallect」で精度を引き上げ

今後、画像検査技術が強みのシリウスビジョンは、ミカエスの機能強化で、事業主体として全体の統括を担う。将来的な有料パッケージ版の販売やマーケティング戦略を策定する。

丸信は、食品ラベルとパッケージ分野で培ったフ

背景に、記載内容が年々複雑化している。ラベル製造やデザイン現場では、内容確認（校正）を熟練者の目視に頼るケースが依然として多い。そのため担当者

の負担増や、ヒューマンエラーの発生防止が課題となっている。

ミカエスは、丸信が食品表示制度の情報提供・実務支援サイト「食品表示.com」で提供しているAI校正ツールだ。ラベルのPDFデータをアップロードすれば、記載内容の整合性確認や法規制の照合を行える。現在は、日本酒、焼酎、ワインのラベルを対象を絞ったβ（ベータ）版を無償公開している。

ウハウを生じ、校正実務に即した機能を監修、実運用を想定したテスト環境を整備する。実際に即した検証も行い、無料版からの機能強化につなげる。

AI開発を担うタクト

ピクセルは、校正実務のコア技術提供とシステム開発を担当する。食品表示ラベルの画像認識とデータ処理には、独自の中枢機能「Koallect（コアレクト）」を提供。1文字単位の誤脱

を防止するほか、フォーマットが不統一なラベルやパッケージの表示内容から、校正に必要な情報を的確に抽出できる性能を備え、食品表示ラベルなどの校正精度を引き上げる。

これら3社の取り組み及び、無償版で得られた知見を活かしてミカエスの機能を向上。様々な食品表示ラベルの校正を厳格に完了するシステムに発展させて、商業化を目指す考えだ。

シリウスビジョンと丸信（福岡県久留米市山川市ノ上町、平木洋二社長）、タクトピクセル（横濱市中区尾上町、大村周司社長、CEO）の3社は昨年12月、食品業界におけるDX（デジタルトランスフォーメーション）推進を目的に業務提携。丸信が公開しているAI校正ツール「mikaesu（ミカエス）」の機能向上に

向けた共同事業を開始する。検査装置メーカー、ラベルコンバーター、ソフトウェア開発企業が協業することで、校正ツールのバージョンアップ作業を加速するとともに、外販を見据えた協議を本格化する。

食品ラベルを巡っては、消費者ニーズの多様化に加え、食品表示法の改正やアレルギー表示の厳格化を